



竹林

白河市立五箇中学校だより No. 10

発行 令和2年6月5日
発行責任者 校長 菅野 靖



県南中体連の中止による今後の部活動について

全国的に非常事態宣言が解除され、これから、新型コロナウイルスの感染の第2波が来るかもしれないと恐れられています。

このような状況の中で、ニースや新聞等で報道になりましたが、中体連総合大会の全国大会、東北大会そして、福島県大会が「生徒の皆さんの命を守る」ことを第一に考え、中止が決定されました。学校からも、今週の初めに、県南中体連総合大会の中止による「県南地区各中学校の運動部に所属する生徒の皆さんへ」の通知を配付させていただきました。

県南中体連としましても、時期をずらしてでも、「県南大会をどうにか開催して、地区の中学生の練習の成果を発表する場をつくってあげたい。」「3年生の活動の集大成である大会をどうにか工夫して実施してあげよう。」と各競技関係者の先生方で検討しました。しかし、学校教育の現場で、学校の授業として感染症のリスクを背負いながら、大会を実施することは、学校教育としての中体連大会の目的を果たすことに対してリスクが大きすぎるということから、総合大会や陸上大会、そして水泳大会も県南大会は実施できないこととなりました。

中学生にとって、部活動は、同じ目標に向けて、学年の枠を超えた大切な仲間と時間を共有し、同じ感覚、同じ意識、大切な人間関係を醸成できる人生にとって意義ある時間です。運動部に所属している中学生にとって、今までの練習の成果、努力の成果を発揮し証明する場が中体連の大会です。そして、3年生にとっては、3年間の活動の集大成として、今までの練習や思いの全てを掛けて、臨むのが中体連総合大会です。

大会がなくなってしまったことは、今まで仲間と共に目標に向けて努力してきた成果を証明する機会や、頑張ってきた証を表現する機会が失われてしまうこととなります。そして、3年生にとっては、大会で負ければ引退し後輩に活動の場を譲るといふ、引退のけじめがつけられなくなってしまうことと思います。

大会がなくなることは、3年生だけではなく保護者の方々、指導してくださった先生方もやりきれない気持ちでいっぱいだと思います。そして、3年生は、高校生の先輩から引き継いだ伝統と想いを最後にぶつける場がなくなったことは、悔しい気持ちでいっぱいだと思います。また、1、2年生は、3年生の最後の中体連と一緒に戦い、応援し、チームのために、3年生のために頑張ろうと思っていたのに、残念に思っていることだと思います。

しかし、中体連の大会はなくなりましたが、今までの努力が無になってしまうわけではありません。部活動で培った困難に打ち勝つ心と身体、共に頑張ってきた部員との絆は決してなくなりません。3年生は高校というより高いステージへのレールはつながっています。

さて、今後の3年生の部活動ですが、五箇中学校としまして次のようにして参りたいと思います。

- 3年生の活動は、基本的に6月いっぱいまでは活動を継続する。
- 対外試合が可能になれば、親の承諾のもと、コロナの対策を万全にして試合形式で実力を試す。
- 同様に、協会主催の大会や競技会がある場合は、そこで練習の成果を試す。

この状況で、最も大切なことは、今できる範囲で最大限に可能な目標をもう一度設定することです。3年生は、卒業生から引き継いだ伝統や想いを後輩に引継ぎ、習得した技術を後輩に伝授するなど、新たな目標を設定し、五箇中学校のチーム力の向上に貢献することです。1、2年生は、3年生と共に活動できる時間を大切に、3年生の想いと伝統を引継ぎ、次の新たな目標に向けて3年生から吸収できるものをすべて自分たちのものにするということです。落ち込んでいても、下を向いていても、時は流れていきます。この状況を恨んで、沈んでいても時間は過ぎていきます。やれることは、前を向き、今やれる最大限のことに尽力することではないでしょうか。今までの自分たちの努力を否定しないためにも、悔しいだけでは終わってはいけないと思います。このような経験は、人生の中で、そう多くあるものではありません。この経験は、将来、絶対に無駄にはならず、必ず、生活や人生の中で生かされるときがきます。

3年生の皆さん、しっかりと、前進してください。保護者の方々、そして地域の方々、今後の子ども達の健全なる成長に向け、お声かけとご支援をいただければと心より願っております。